



砂取小だより

No. 2 1

R 6. 1. 1 1

熊本市立砂取小学校
校長 竹原 欣哉

「いい感じ」(規律) 「お先にあいさつ」(礼節) 「やってみよう」(挑戦)

3学期始業式校長あいさつ(1月9日)

明けましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

3学期の始業式、何を話そうか随分と悩みました。北陸の地震のことに触れようか、それとも元気で明るくなれるような話をしようか。しかし熊本地震を経験した私たちは、この地震のことを素通りすることはできないと思い、私の想いも含め次のような話をしました。

全校児童の皆さん、明けましておめでとうございます。

新しい年が明けましたが、先ほども黙祷したように、心から「おめでとう」とは言えないようなことが元日に起きてしまいました。皆さんの中には、北陸に親戚や知り合いの方がいたりするお友達もいるかもしれません。心配ですね。

多くの方が亡くなられ、未だに行方が分からない方々を探し助け出す作業が、雪の降る中懸命に続けられています。被害を受けた地域の学校も、本当なら今日が始業式だったそうですが、しばらくは3学期を始めることができません。

私たちが住む熊本も、2016年に大きな地震を経験しています。一年生の皆さんの多くは、この年に生まれてきた人たちですね。児童の皆さんや先生方には、熊本地震の事を思い出した人も多いことでしょう。

校長先生は益城町に住んでいます。震源に近く熊本でも被害が大きかった地域です。ニュースを見ていると、あの時の校長先生の家近くの光景と全く同じなんです。あの光景がまるで昨日の事のように思い出されました。・・・そうです、思い出したんです。・・・ということは、・・・忘れていた？

「忘れてはいない!」「忘れるはずがない!」と自分では思っていました。でも、ニュースを見てハッとしました。正直、忘れてたんです。忘れてはいけないのに・・・とても恥ずかしいと思いました。

「学校が、子どもの命の最後の場所になってはならない」という言葉があります。
これは、東北地震で多くの児童や先生が犠牲になった大川小学校の裁判で、
裁判長が言った言葉です。

この言葉のとおり、みんなが安心して生活することができる学校にしようと、校長先生は強く思っています。でもこれは、校長先生だけが、先生たちだけが、強く思ってもだめなんです。児童の皆さんも一緒に学んでいかないといけません。「放送を立ち止まって聞く」、シェイクアウト訓練もそのためです。

『「みんなが安心して生活することができる学校」を目指して進もう!』、校長先生は改めて強く思いました。そしてこれが、校長先生が今年一年頑張ろうと思ったことです。一生懸命やります。皆さんの協力も必要です。

今年一年、皆さんどうぞよろしくお願いいたします。